

本種は四川省の西部に、*H. maxima* は湖北省の西部に、*H. magnifica* は湖北省南部と湖南省とに分布しており、日本に分布するものとの関連性が考えられるところである。なお本種では退化花卉が3本、雌雄蕊群の周囲にあって曾っての時代に大きな花卉を用意したであろうことを物語っている。他の2種ではその報告がないが、或は存在するのを見落としたかも知れない、これは今後の研究に俟ちたい。

#### Explanation of plate XIV

##### *Heterotropa splendens* F. Maekawa

- A. Flower mass (photo by H. Hara).
- B. A flower (photo by H. Hara).
- C. The same (photo by F. Maekawa).
- D. The plants growing wild on Mt. Omei (photo by H. Hara).

□佐鳥英雄・須藤志成幸・津久井芳雄：桐生市植物誌 257 pp. 1981. 桐生市教育委員会桐生市は瀬良瀬川の沖積層から足尾山地の山岳 1,100 m の山地に亘っていて、群馬県の東隅に位置し、フロラ的にみると関東地域に属するが隣接したフォッサマグナ地域と日本海地域とからの要素もまじった極めて興味のある地域である。本書はその所産の1,300種を網羅したものであるが、著者3人とも本職は別で熱意と興味からもり上がったものであることに敬意を表したい。それは本論の植物目録の前に150ページを越える分布と群落の所論が添えられていることでも分るし、範囲内にはカッコソウの群落があることでも有名である。終りにつけられた研究ノートも貴重な体験を述べている。読んでみて、色々考えさせられたことも事実であるが、ソハヤキ要素の52種については再考したいと思う。なお本書は桐生市織姫町 1-1, 桐生市役所内教育委員会社会教育課で発売している。

(前川文夫)

□遠山 益 (訳)：入門応用植物解剖学 210 pp. 1981. 出立出版, 東京. ¥2,500. 本書はD.F. Cutler: Applied plant anatomy (1978) を訳したものである。解剖学はとかくおもしろくない分野と思われ勝ちである。本書でははじめに実験の方法を述べ次に学術用語を適切に解説して、それから葉、茎及び根の組織学、分裂組織、二次系、適応した特徴、花と果実と進んで経済面への応用で終わっている。処々に走査顕微鏡の分解図が挙げられているのも良い。葉や茎の主な特徴がみられる例や世界の各地で普通にみられる植物の主な特徴などが挙げてあるのもよい思いつきと思う。

(前川文夫)